

授業資料ナビコーナーにおける RFIDを用いた資料利用調査

千葉大学附属図書館学術コンテンツ課
佐野悠

授業資料ナビゲータ

- 授業を対象としたパスファインダー
- 担当教員と図書館員が協力して作成
- 授業内容に即した図書やWebサイトなどを掲載
- Webページ*で公開の他、印刷体も配布
- 特に、主題知識の乏しい学部1・2年生へのナビゲーションツールを目指す

*<http://alc.chiba-u.jp/pathfinder/>

授業資料ナビゲータ(PathFinder)	教養展開科目(コアD関連) 平成25年度(2013) 授業コード:G15D33101
現代日本の教育課題を考える	
月5 白川 優治先生	
キーワード: 教育 学校 教育制度 教育政策 教育問題 教育と社会	
<p><input checked="" type="checkbox"/> 一実際に利用した資料にはチェックをしましょう。 ★のついている図書は、授業期間中は本館N棟2階授業資料ナビコーナーにあります。</p>	
<p>Web 授業のテーマに関連したデータベースやサイトです。</p>	
<p><input type="checkbox"/> 文部科学省 [http://www.mext.go.jp/] → 教育全般についての情報があります。白書、統計等へリンクもあります。</p>	
<p><input type="checkbox"/> 読売新聞 教育ページ [http://www.yomiuri.co.jp/kyoiku/] → 以下にあげる新聞のページでは、教育問題の過去、また最新の情報を得られます。また、図書館のHPのヨミダス(学内のみ)から、キーワードで検索してみましょう。1986年以降のデータを検索したり、全文が読めるものもあります。</p>	
<p><input type="checkbox"/> 朝日新聞 教育ページ [http://www.asahi.com/edu/] → この他にも、図書館HPの閲覧(学内のみ)から、キーワードで検索してみましょう。1986年以降のデータを検索したり、全文が読めるものもあります。</p>	
<p>図書 本には、テーマに関する内容がまとめられています。授業のテーマをつかむにはまずはここから始めましょう。</p>	
<p>■ 教育学・教育社会学・教育問題の概説</p>	
<p><input type="checkbox"/> 教育の社会学:「常識」の問い合わせ方・見直し方 / 荻谷剛彦 [ほか] 著 新版 有斐閣 2010 有斐閣アルマ: Specialized ★【本館K棟3階A 371.3/KYO】</p>	
<p><input type="checkbox"/> 学校って何だろう:教育の社会学入門 / 荻谷剛彦著 筑摩書房 2005 ちくま文庫: [か-46-1] ★【本館L棟4階小型 370.4/KYO】</p>	
<p><input type="checkbox"/> 教育社会学 / 柴野昌山, 菊池城司, 竹内洋編 有斐閣 1992 有斐閣ブックス:[657] ★【本館K棟3階A 371.3/KYO】</p>	
<p><input type="checkbox"/> 教育論議の作法:教育の日常を懐疑的に読み解く / 広田照幸著 時事通信出版局 2011 ★【本館K棟3階A 370.4/KYO】</p>	
<p><input type="checkbox"/> よくわかる教育社会学 / 酒井朗, 多賀太, 中村高康編著 ミネルヴァ書房 2012 やわらかアカデミズム、「わかる」シリーズ ★【本館K棟3階A 371.3/YOK】</p>	
<p><input type="checkbox"/> 教育問題はなぜまちがって語られるのか? : 「わかったつもり」からの脱却 / 広田照幸, 伊藤茂樹著 日本図書センター 2010 どう考える?ニッポンの教育問題 → 教育は誰もが受けた経験があるだけに、いろいろな人がいろいろな立場から議論していきます。しかし、教育課題や制度として考えるためには、その議論がどこまで一般的なものかを考える必要があります。教育について議論するために注意すべきポイントは何かを考えさせてくれる本を挙げました。 ★【本館K棟3階A 372.107/KYO】</p>	
<p>■ 日本の教育</p>	
<p><input type="checkbox"/> 教育と平等:大衆教育社会はいかに生成したか / 荻谷剛彦著 中央公論新社 2009 中公新書:2006 ★【本館N棟2階ブックツリー・中公新書 080/2006】</p>	
<p><input type="checkbox"/> 大衆教育社会のゆくえ:学歴主義と平等神話の戦後史 / 荻谷剛彦著 中央公論社 1995 中公新書:1249 ★【本館L棟4階小型 372.1/TAI】</p>	
<p><input type="checkbox"/> 格差・秩序不安と教育 / 広田照幸著 世緯書房 2009 → 戦後日本の教育はどのような制度のもので、何を重視して設計してきたのか、どのように変化しているのかを考えるきっかけになる本として上記の3冊を紹介します。社会の変化と教育の変化の関係を考える材料にしてください。 ★【本館K棟3階A 370.4/KAK】</p>	
<p><input type="checkbox"/> なぜ、人は平気で「いいじめ」をするのか?:透明な暴力と向き合うために / 加野芳正著 日本図書センター 2011 どう考える?ニッポンの教育問題 → 現在の教育課題を考える中で「いいじめ」の問題は避けて通れないテーマのひとつです。それでは、なぜ「いいじめ」は起こるのか。どう対応することがよいのか。答えのない問いですが、考えるきっかけとしてこの本を紹介します。 ★【本館K棟3階 371.42/NAZ】</p>	

授業資料ナビコーナー

本館N棟2階ブックツリー



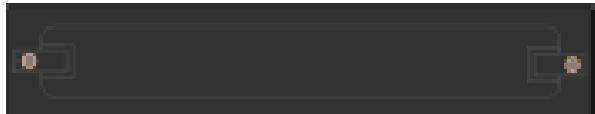
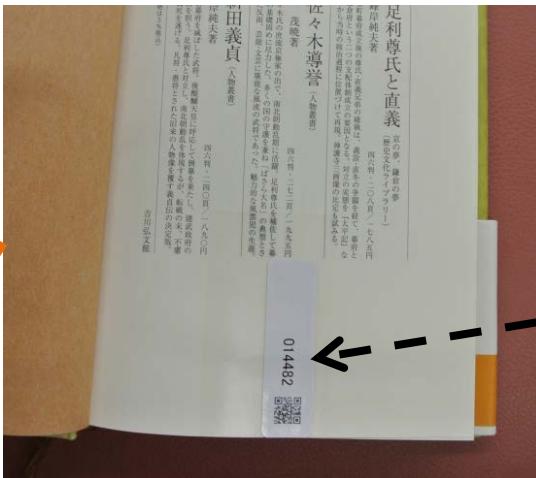
授業別に配架

「貸出可」と「館内用」
の2冊を用意



RFID (Radio Frequency IDentification)

⇒ タグとリーダ(無線機器)との間の無線通信技術



制御システム、
管理用PC

※帝人株式会社との共同実験として実施

2013年度前期 授業資料ナビ

作成科目数

普遍教育科目		専門教育科目	
教養コア科目	教養展開科目	文学部科目	計
29	11	5	45

※作成ナビ数は36

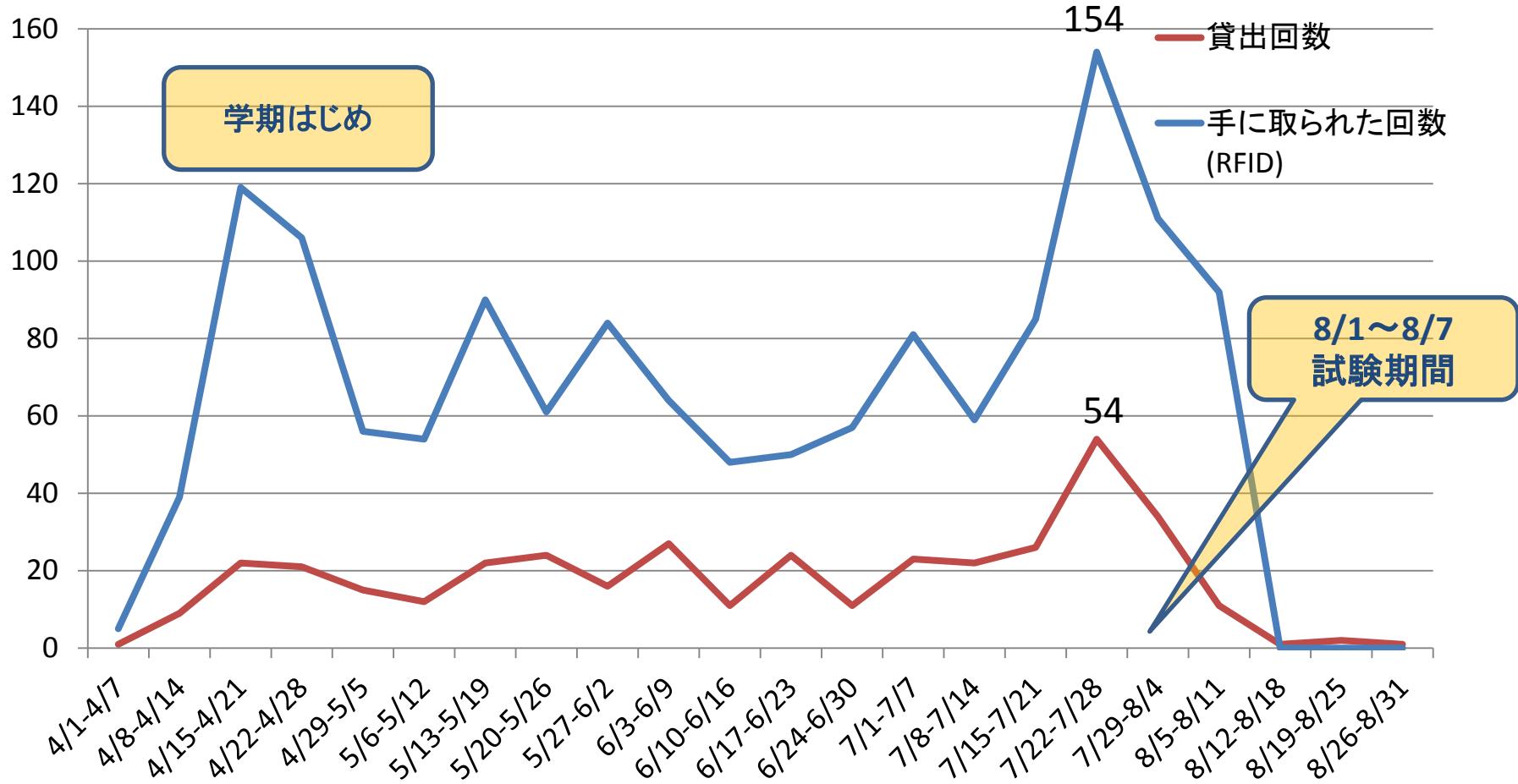
ナビコーナー配架冊数

貸出可	館内用	計
378	426	804

※469タイトル

利用回数についてのデータ

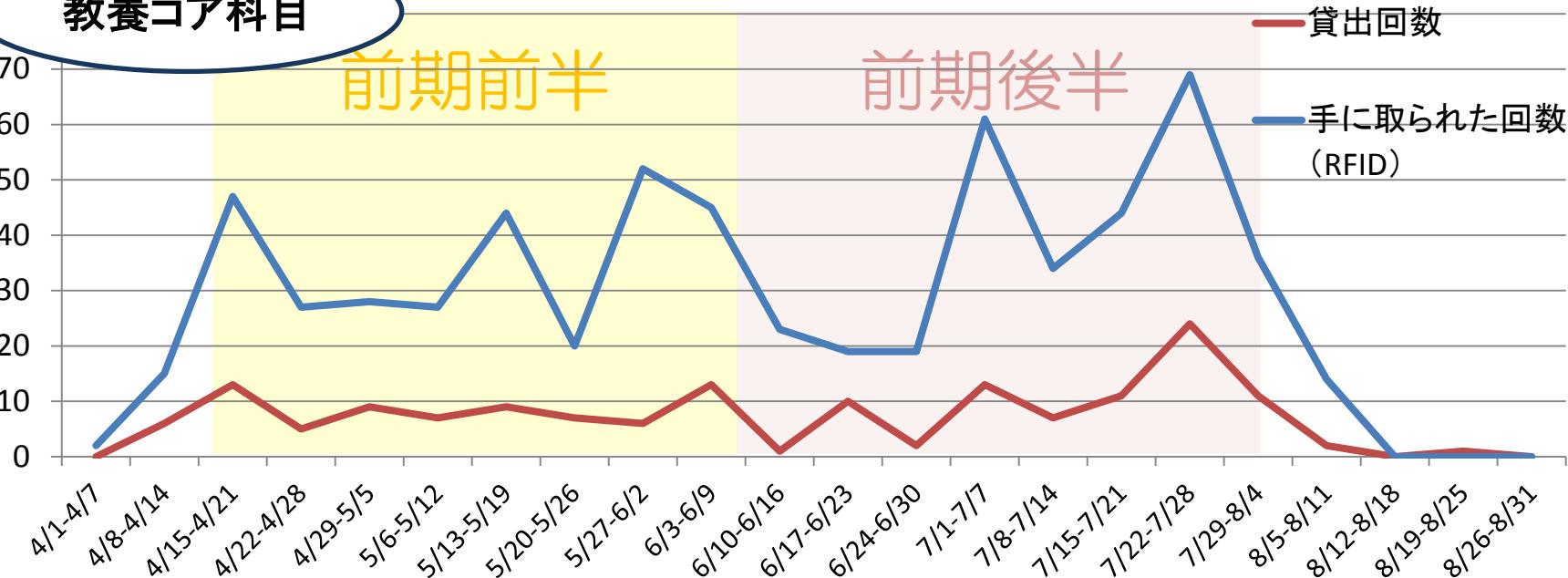
貸出回数と、手に取られた回数(RFID)の学期内推移



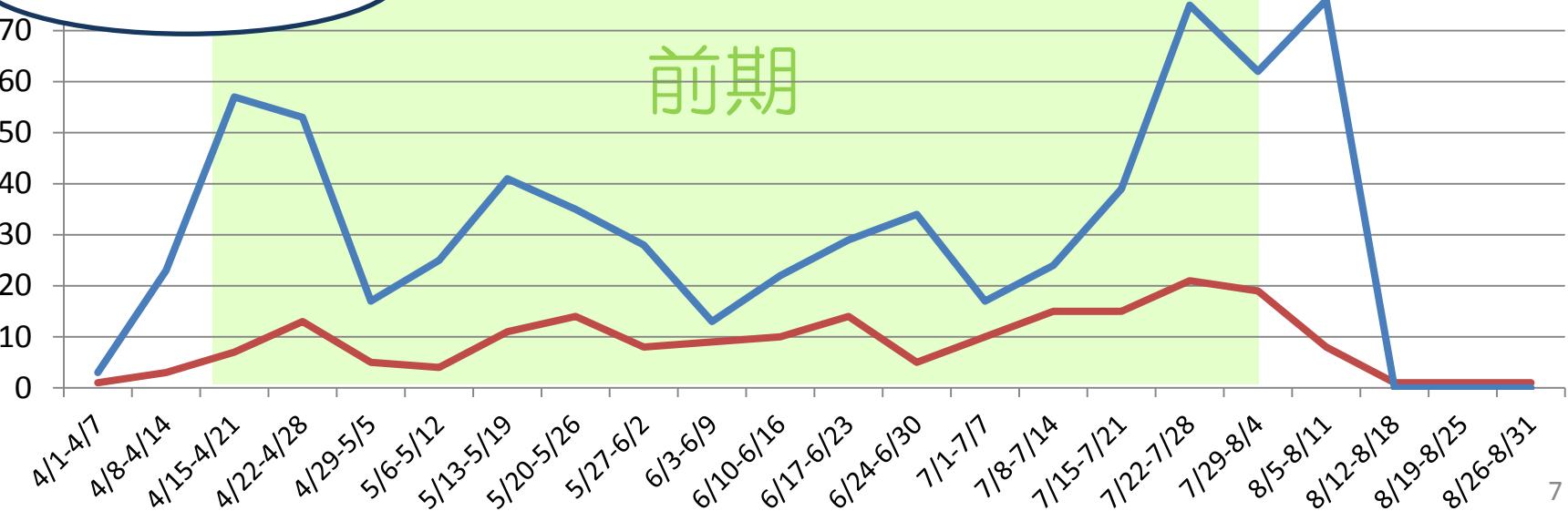
貸出回数 計389回

手に取られた回数 計1415回

教養コア科目

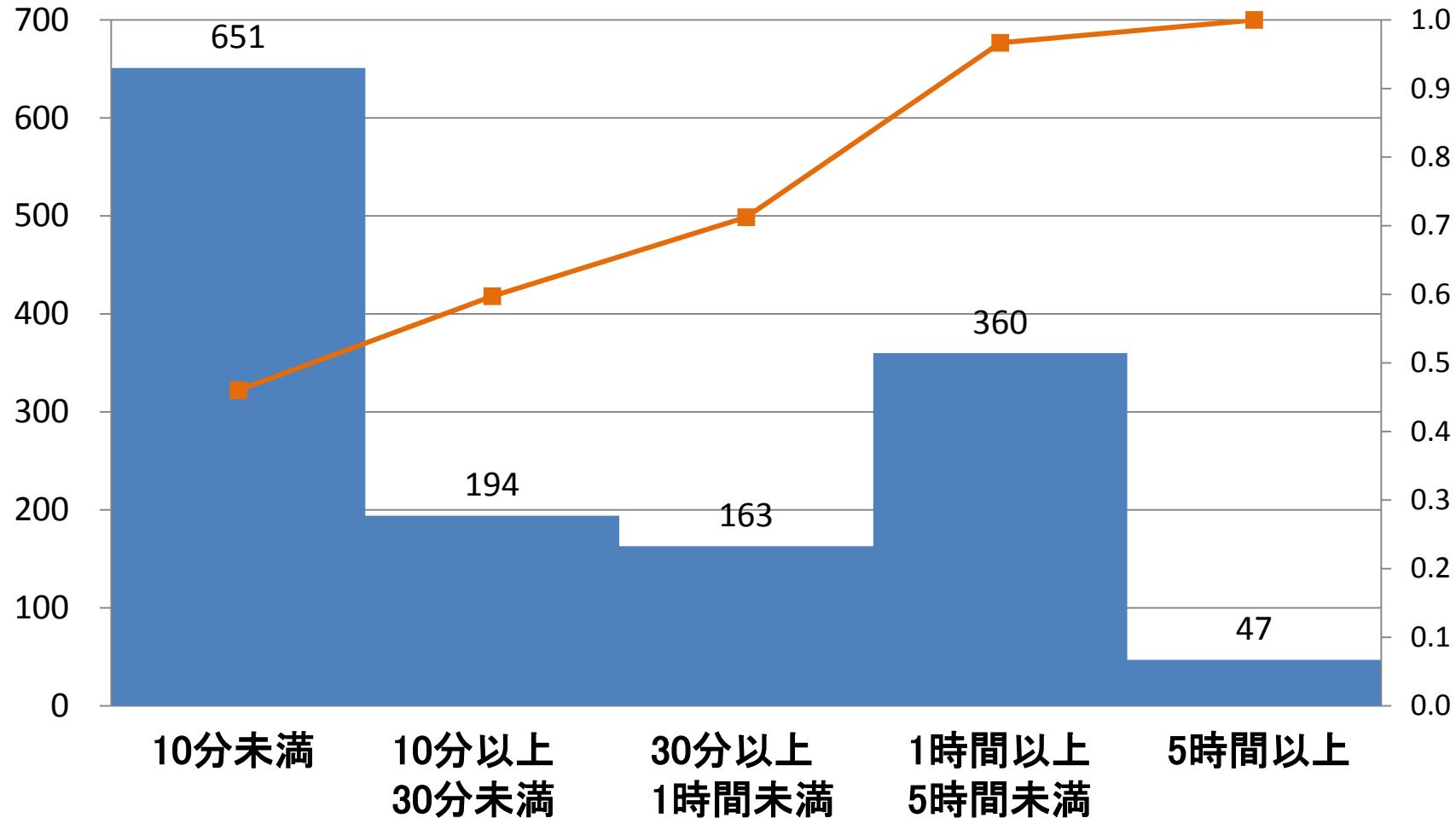


教養展開科目



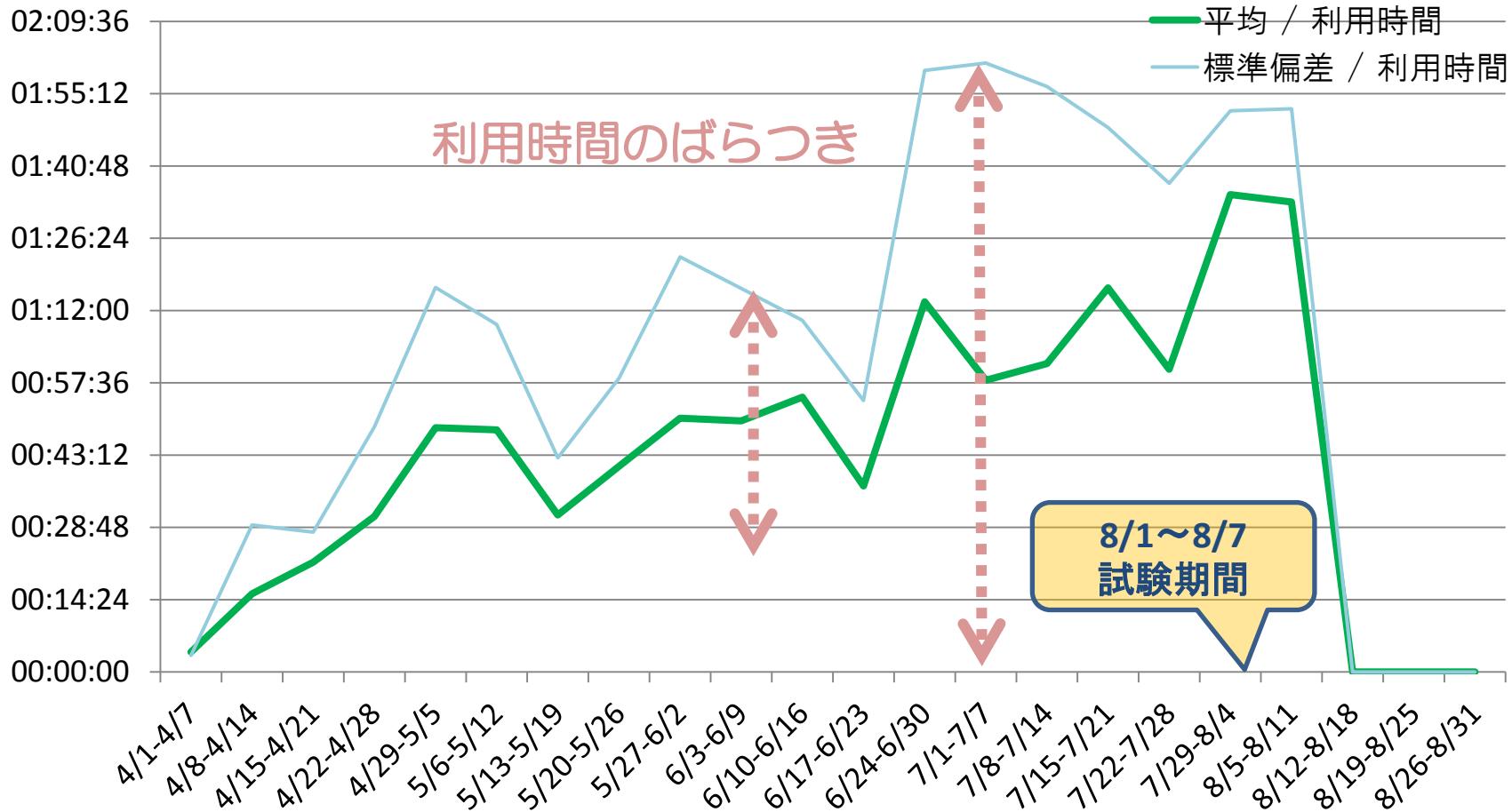
利用時間についてのデータ①

利用時間階級別 利用回数分布



利用時間についてのデータ②

平均利用時間の学期内推移



資料の利用傾向についてのデータ

貸出回数	0回	1回	2回	3回	4回	5回	6回
タイトル数	282	81	48	32	18	4	4

貸出回数が少ない=使われない?

貸出回数が多い=よく使われている?

貸出がなかった図書は本当に使われていないのだろうか。

貸出回数が少ない。

専門的な内容の書籍は、紹介されても読まれない?

図鑑や辞書、事典類の貸出が少なかったが…

図書よりもインターネットからの情報?



手に取られた回数 (R F I D)	貸出回数						
	0回	1回	2回	3回	4回	5回	6回
0	131	11	5	2	0	0	0
1	67	17	5	5	2	0	0
2	25	12	8	2	3	0	0
3	20	10	3	5	1	0	0
4	12	3	7	1	0	1	0
5	8	6	5	0	2	0	0
6	7	4	2	2	1	0	0
7	8	5	4	3	0	0	1
8	2	3	2	1	1	0	0
9	0	3	4	1	0	1	1
10	0	1	0	4	1	0	0
11	0	2	0	1	0	0	0
12	0	1	0	1	2	1	0
13	0	0	0	0	2	0	0
14	0	1	1	1	1	0	0
15	0	1	0	0	0	1	0
16	0	1	0	1	0	0	0
17	0	0	0	2	0	0	0
18	0	0	0	0	1	0	0
19	0	0	0	0	0	0	1
20	0	0	0	0	0	1	0
21	0	0	0	0	0	0	0
22	1	0	0	0	0	0	0
23	0	0	0	0	0	0	0
24	0	0	0	0	0	0	0
25	1	0	0	0	0	0	0
26	0	0	0	0	0	0	0
27	0	0	1	0	0	0	0
28	0	0	0	0	0	0	0
29	0	0	0	0	0	0	0
30	0	0	0	0	0	0	0
31	0	0	0	0	0	0	0
32	0	0	0	0	0	0	0
33	0	0	1	0	0	0	0

- 貸出0回の中でも、151タイトルは館内利用がある。
- 図鑑や絵本等、貸出は少ないが、館内では手に取られている資料がある。
- 貸出回数だけでははつきりと見えない、「よく利用されている資料」が見える。

本日のまとめ

- 授業資料ナビコーナーに導入したRFIDシステムによって、館内で資料が「手に取られた」利用についてのデータが得られるようになった。
- 利用回数は、学期の最初と試験前の2つの山がある。
- 利用時間は、10分未満と、1時間以上5時間未満の2つの山がある。
- 1回の利用時間は、学期の後半にいくにつれて長くなる傾向にある。
- 「手に取られた」利用も含めて評価することにより、今までわからなかった資料の利用が見えてくる。

今後の展望

更に分析をすすめる

質的解釈

例えば…

貸出回数と手に取られた回数の二次元
ヒストグラムを授業ごとに作成してみる
→なぜこのような分布になるのか？

異なる視点から

例えば…

N棟に場所が変わった前と後のデータを
比較
→利用の傾向が変わっているか？



館内の資料利用行動を
明らかにする手がかりに…



ご清聴ありがとうございました。